

16 口喝感の緩和に向けてのウエットケアの試み

医療法人慈泉会相澤病院透析腎不全センター 丸山貴代、高橋説子、

高見沢昌慶、小口智雅、白鳥勝子、神應裕

【はじめに】

透析患者の口喝感は、飲水の制限を余儀なくされる事で、精神的にも増強され、最も大きな苦痛となります。

今回、当センターにおいて、口喝感の改善と水分コントロールを目的としたウエットケア、(うるおいスプレー飲料)の使用を試みたので、その結果を報告します。

【対象および方法】

外来透析患者、男性9名、女性10名、計19名を対象としました。表1に示した様に、平均年齢 60.9±9.6歳、原疾患は19名中、8名が糖尿病性腎炎であり、透析歴の平均は、7.1年でした。(年齢、原疾患、透析歴は表1に示す。)

表1 対象

年齢	原疾患	透析歴
40歳代 3名	慢性糸球体腎炎 4名	1~19年(平均7.1年)
50歳代 6名	糖尿病性腎症 8名	5年未満 11名
60歳代 6名	多発性嚢胞腎 1名	5年以上 8名
70歳代 4名	その他の腎炎 6名	
平均 60.9±9.6		

方法は、1週間観察期間をおいた後、ウエットケアを2週間使用し、使用前と使用後の透析間体重増加量・除水量・口喝感及びストレススコアを比較しました。

【結果】

図1のごとく、透析間での体重増加量は36.8%の患者が減少し、除水量は63.2%の患者が減少した。

丸山 貴代慈泉会相澤病院透析腎不全センター
〒390-851 松本市本庄 2-5-1 TEL(0263)-33-8600

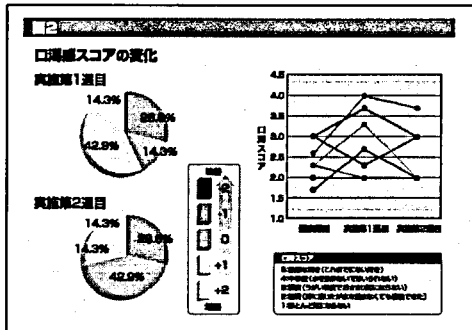
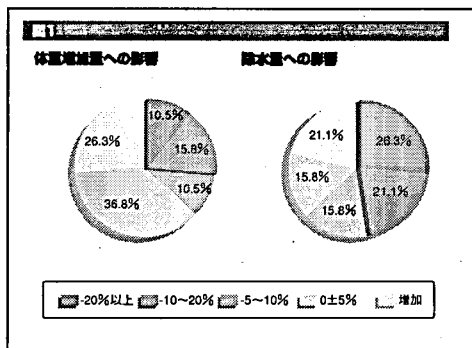


図2のごとく、口喝感は、実施から1週目に28.6%が緩和されたが、逆に増強した患者も57.2%認めた。2週目では改善は28.6%で1週目と変わりなかったが、増強した患者は28.6%に減少した。

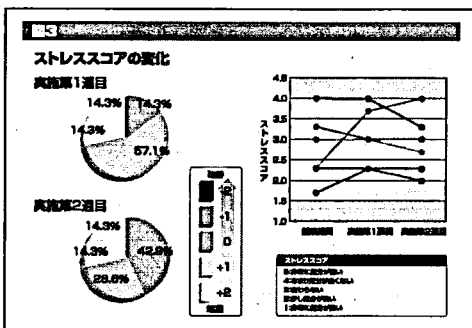


図3のごとく、ストレスは、実施1週間で14.3%の患者が軽減し、2週目ではさらに、42.9%の患者でストレスが軽減した。

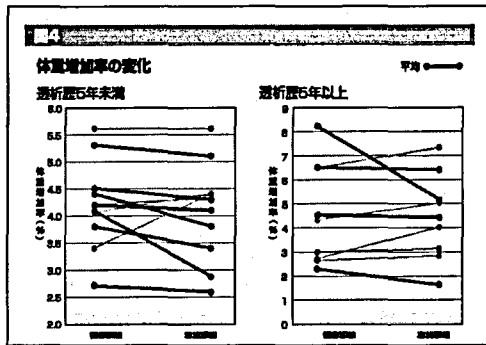


図4の透析歴別で見ると、5年以上の患者よりも、5年未満の患者で、有意差はないが、体重増加率が減少する傾向があった。

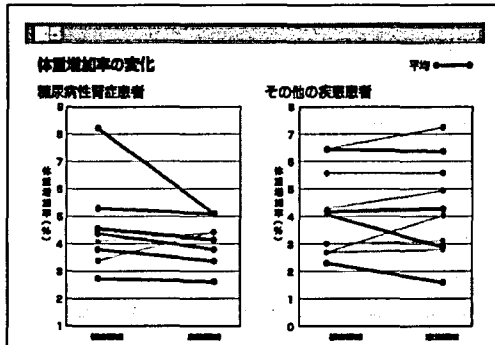


図5の疾患別では、糖尿病性腎症の患者に、体重増加の減少が多い傾向がみられた。

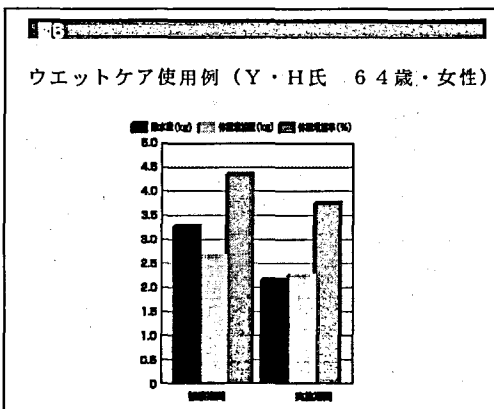


図6は、原疾患が糖尿病性腎症で透析歴7ヶ月の患者、Y・H氏の使用例である。体重増加量、除水量が顕著に減少し、血圧低下のない安定した透析が得られるようになった。

フリーコメント結果ではのどが乾いた時にウェットケアは少しそれをやわらげる効果はあり、多少は水分摂取を減らすことができたと思うが、やはり水を飲ないと満足しないとした意見が多く聞かれた。また、普段は水分摂取量にあまり変化はないが、ゴルフや運動時、及び土曜、日曜日などの休みや2日あきの時の水分制限に有効とした意見があった。

【考察】

ウエットケアは、全ての症例に効果的とはいえませんでした。体重増加の減少に、著効を示した例もあり、全体では36.8%の患者で体重増加の減少が得られました。また、糖尿病性腎症の患者や透析歴5年未満の患者に、体重増加率が下がる傾向が見られた事で、このような症例には、ウエットケアが効果的である可能性があります。ウエットケアを継続する事によって、口渇感の緩和傾向がみられ、そして、口渇によるストレスは、実施2週目で42.9%の患者で軽減し、効果が認められました。しかしながら、厳しい食事制限と適正な管理を、長期にわたって継続することは困難なことです。患者のアンケート結果から、ウエットケア使用により、口渇感・水分摂取の軽減を示唆した意見がみられた事から、ウエットケアは、水分管理の動機付けになり得ると考えられました。

以上の事から、維持期の患者のみならず、保存期や導入期の患者の水分管理に際し、ウエットケアが食事指導の選択肢になると考えています。

【結語】

ウエットケアを契機に、水分管理・体重コントロールが良好となった症例があり、ウエットケアは、食事指導の1つの選択肢になりうると考えられます。

【参考文献】

- 1) 日本腎不全看護学会：透析看護：医学書院：2003,10
- 2) 透析患者の生活サポート：メディカ出版：1997,冬季増刊号